

『履修の手引き』記載内容の変更について

2025（令和7）年度から、下記のとおり変更があります。本変更は、2024（令和6）年度以前に入学した学生にも適用されますので留意してください。

なお、TLPは2025（令和7）年度以降の入学者に対しては廃止となりましたが、2024（令和6）年度以前に入学した学生に対しては 本件通知に拠らず従前のTLPに係る記載事項が適用されます。

記

1. 総合科目の新設及び変更

（別表4）総合科目授業内容概要

区分	系列	大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定 Semester・ ターム	数単 位
新設	A	表象文化論	性と身体Ⅱ	<u>【D&I科目】現代社会におけるジェンダー、セクシュアリティと身体をめぐる諸問題を考察する。</u>	<u>S</u>	<u>2</u>
新設	A	思想史・科学史	世界哲学	<u>「世界哲学」の理念と実践を学び、世界で展開されてきた様々な哲学伝統について検討することで、現代における哲学の意義と可能性を議論していく。</u>	<u>S/A</u>	<u>2</u>
新設	D	地球環境論	気候変動と社会	<u>気候変動問題の科学と社会およびその相互作用について俯瞰的に論じる。</u>	<u>S・A</u>	<u>2</u>
変更	D	身体運動科学	スポーツ・身体運動実習	様々なスポーツやトレーニングの実習を通じて身体の操作や調節の科学的基礎を学ぶとともに、心身の健康の維持増進を図る。 <u>【S Semesterのみ2年生対象・週1コマで1単位】</u>	S・A	1
変更	D	環境・資源農学	食糧と環境※	<u>人類にとって最も重要な資源、すなわち食糧を、陸域ならびに水域でどのように生産し、利用しているか。その基礎について、資源管理、環境調和、技術開発の視点から総合的に学ぶ。</u> <u>【2026年度より廃止】</u>	<u>S・A2</u>	<u>1</u> <u>または</u> <u>2</u>
新設	D	環境・資源農学	海の恵みの科学※	<u>人類は食用魚介類のほか、化学や工業原料、文化的活動の場、生態系調節機能といった海洋生物資源が支える多くの恵みを享受する。本講義ではこの海洋生物資源を持続的に利用するために必要となる水圏環境および生態系内での物質循環や生物生産、有用生物の特性やその有効な利用法・管理法に関する基礎的な知見を習得する。</u> <u>【2026年度より新設】</u>	<u>S</u>	<u>2</u>

新設	D	環境・資源農学	農業と環境 ※	人類にとって最も重要な資源である農産物を、どのように生産し、利用しているか。その基礎について、資源管理、環境調和、技術開発の視点から総合的に学ぶ。 【2026年度より新設】	A2	1
----	---	---------	------------	---	----	---

※2025年度以前に「食糧と環境」を履修し単位を取得した者が、「海の恵みの科学」または「農業と環境」を履修することは認められない。

2. 総合科目L系列国際コミュニケーション [高度] 科目の新設に伴う一連の記載の変更

II 各科目の履修方法

1. 履修に関する一般的注意事項

(1) セメスター毎の履修登録単位数の上限(キャップ制)

(略)

	履修登録 単位数の上限	1Sセメスター	1Aセメスター	2Sセメスター
		30単位	30単位	30単位
全 科 類 共 通	(例外)履修登録単位数の上限に含まれない科目			
	・集中講義(『科目紹介』(シラバス抜粋)『時間割表』において曜限欄に“集中講義”と記載されている基礎科目以外の科目)			
	・主題科目「国際研修」			
	・ <u>総合科目L系列・大科目[国際コミュニケーション]の科目のうち、外国語初級・中級・上級の演習[高度]とインテンシヴ[高度]のセット履修科目(p. ○)</u>			
	・総合科目E系列・大科目[アドバンスト理科]の科目			
	・他クラス聴講(p. ○)により履修する科目、「数理科学基礎」の補修(p. ○)			
・後期課程の各学部が開講する専門科目(p. ○)				

(略)

4. 総合科目の履修

(2) 履修上の条件を設けている総合科目

(略)

系列	科目名	履修条件(別表4(p. ○以降)に明記されているものを除く)
L	外国語初級	(略)
L	外国語中級	・初級(会話)、初級(作文)、初級(表現練習)、初級(読解)は、1年生の履修を優先する。
L	外国語上級	・ <u>初級・中級・上級のうち、インテンシヴ・コース[高度]及び演習[高度]のように開講科目名に[高度]がつく科目は、決められたセットで履修することを原則とする。</u>

(略)

(略)

4. 総合科目の履修

(4) 特別コース・プログラム

④ 外国語インテンシヴ・コース

(略)

このコースに参加する学生は授業開始日(掲示によって指定する)にオリエンテーションを行って募集する。人数は約30名を目安とし、希望者が多数の場合は抽選や選抜を行う。

このコースは原則、S/Aセメスターに開講し、各セメスターに完結するものである。継続の義務はなく、また1Aセメスター、2Sセメスターからの参加も認められる。ただし、継続を希望する者は優先して次のセメスターにも参加できるよう配慮する。

ただし、(初級・中級を問わず)開講科目名に[高度]がつくインテンシヴ・コース[高度]の場合、セットとなる演習[高度]科目1コマとあわせて、原則3科目週3コマ履修する。なお、希望者が多数の場合には、抽選や選抜を行う。

(略)

3. 国際教養コース(PEAK)科目の名称変更

II 各科目の履修方法

6. 国際教養コース(PEAK)科目の履修

(略)

<国際教養コース生以外が履修できる PEAK 科目>

PEAK 科目区分	PEAK 科目名	単位取得した際の取り扱い (下記科目(系列)の単位として扱われる。)	
(略)			
基礎科目	数理科学	数学I、II(PEAK)	
	物質・生命科学	物理学基礎(PEAK)	主題科目「全学自由研究ゼミナール」
		化学基礎(PEAK)	
		地球科学(PEAK)	
		<u>※令和7年10月から「物質科学概論」に名称変更</u>	
生命科学(PEAK)			
(略)			

(略)

4. その他の変更（他の通知等で周知している事項の追記および取扱いを明示するための修正）

IV 定期試験と成績の評価

1. 定期試験・レポート

(4) 不正行為について

(略)

以下の注意事項を守らなかった場合には、不正行為として取り扱われることがある。

(略)

⑧授業やレポート作成等に生成 AI (ChatGPT 等) を利用する際は、担当教員に指示を仰ぎ、従わなければならない。また、特段の指示がない場合でも、本学の定める関連ガイドライン等を遵守しなければならない。 (<https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/online/topics/generative-ai>)

(略)

3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合

(5) 補修

対象科目	対象者
(略)	
数理科学 「数理科学基礎」(理科一類・二類・三類生)	左記講義の成績評価が「不可」または「欠席」だった <u>者理科生</u>

(略)

② 数理科学の補修

「数理科学基礎」の成績評価が「不可」または「欠席」だった者理科生は、1 A セメスターに補修することができる。また、2 S セメスター終了時に「数理科学基礎」の単位を未取得の者理科生は、さらに2 A セメスターに補修することができる。補修は週1コマのセメスター制授業として開講される。

(略)

4. 留年・降年

(4) 留年・降年した場合の再履修に関する注意事項

(略)

~~③ 基礎実験の再履修に際しては、留年・降年者の名前は出席簿に記載されていないが、所属すべき班はあらかじめ決まっている。出席簿への名前の追加はタームの第1週目にしか行わないので、留年・降年した者で基礎実験の履修を希望する者は、担当教員に申し出て、出席簿に名前を追加してもらうこと。~~

④③留年・降年した場合、留年・降年以前に履修していた展開・総合・主題科目のうち、欠席の科目については、進学選択の平均点計算の際に算入しない (p. 〇)。

5. その他の変更（わかりやすい表現にするための修正）

I 教養学部前期課程での学修

4. 進学選択が可能となる条件と前期課程修了要件

(1) 進学選択が可能となる条件

2年次に実施される進学選択が可能となるためには、1S1タームから2S2タームまで在学したうえで、2S2ターム・2Sセメスター終了時 （成績が確定した時点） までに、下記の表1「進学選択が可能となる条件」に示す条件を満たさなければならない。

（略）

(2) 前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について

前期課程を修了し後期課程に進学するためには、進学選択において進学先が内定したうえで、1S・1A・2S・2Aセメスター において、それぞれ一度でもセメスターを通じて在学し（合計2年間以上）、すべてに下記の表2「前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数」に示す、各科類に要求される単位を取得しなければならない。

（略）

II 各科目の履修方法

2. 基礎科目の履修

(1) 外国語

⑤ 既修外国語（英語）の単位数と履修方法

（略）

なお、非英語圏からの留学生、およびまたは入試の外国語を英語以外で受験した者で、かつ英語の履修を希望する者を対象に「英語特別クラス」を開講している。

（略）

(3) 身体運動・健康科学実習

（略）

「身体運動・健康科学実習Ⅰ」の成績評価（p. ○）が「不可」または「欠席」となった場合は2Sセメスターに、「身体運動・健康科学実習Ⅱ」（1Aセメスター）の成績評価が「不可」または「欠席」となった場合は2Sセメスター とあるいは 2Aセメスターに、それぞれ再履修が可能である。

（略）

(8) 自然科学 数理科学

（略）

※ 他クラス聴講（p. ○）を行う場合には、原則として自分が所属する科類を対象とする授業を申請すること。また、講義と対応する演習がある科目について、両方の他クラス聴講を行う場合には、同じクラスを対象とした講義・演習を履修すること。（ただし、後期課程の専門科目の必修科目と重複している等、時間割上の都合がある場合を除く）。また、講義と対応する演習がある科目について、両方の他クラス聴講を行う場合には、同じクラスを対象とした講義・演習を履修することを推奨する。

（略）

4. 総合科目の履修

(2) 履修上の条件を設けている総合科目

系列	科目名	履修条件(別表4(p. ○以降)に明記されているものを除く)
(略)		
D	スポーツ・身体運動実習	(略) 「スポーツ・身体運動実習」「スポーツ・身体運動実習Ⅱ」と総合科目(PEAK)(p. ○)の「スポーツ・身体運動実習Ⅰ(PEAK)」「スポーツ・身体運動実習Ⅱ(PEAK)」を合わせ <u>た取得単位数の上限は、2年次S2ターム・Sセメスター終了時までには2単位、2年次A2ターム・Aセメスター終了時までには4単位である。これを超えて履修することはできない(留年・降年した学生も同様)、2年次S2ターム・Sセメスター終了時までには2単位、2年次A2ターム・Aセメスター終了時までには4単位までしか取得できない。</u> 総合科目の最低単位数の中には合わせて2単位まで含めることができる。
D	スポーツ・身体運動実習Ⅱ	(略)
(略)		

8. 要求科目・要望科目の履修

(略)

※要求科目は、令和7年4月現在、理系の学部・学科等が設けており、文科生が当該理系学部・学科等への進学を志望する際には、2S2ターム・2Sセメスター終了時 (成績が確定した時点) までの単位取得が必須となる。

(略)

IV 定期試験と成績の評価

3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合

(3) 他クラス聴講

(略)

(注4) 数理科学の他クラス聴講を行う場合には、原則として自分が所属する科類を対象とする授業を申請すること。~~また、講義と対応する演習がある科目について、両方の他クラス聴講を行う場合には、同じクラスを対象とした講義・演習を履修すること。~~(ただし、後期課程の専門科目の必修科目と重複している等、時間割上の都合がある場合を除く)。また、講義と対応する演習がある科目について、両方の他クラス聴講を行う場合には、同じクラスを対象とした講義・演習を履修することを推奨する。

(略)

(6) 2Aセメスター特修クラス

(略)

なお、特修クラスの合格者が進学内定を取り消された場合でも特修クラスの合格者が、何らかの要因により進学内定が取り消された場合でも、当該外国語の平均合格は取り消されない。

(略)

4. 留年・降年

(略)

(1) 留年

(略)

② 2年次終了時の留年

~~1) 留年等で修業年限の2年間を満たしているものを除き(ただし1・2年次の各セメスターにそれぞれ1度でも在学していること)、2A1ターム・2Aセメスター以降に休学した者は、自動的に留年となる。~~

~~2) 前期課程修了要件(p. ○)を満たさなければ、自動的に留年となる。~~

1) 2Aセメスターにおいて、一度もセメスターを通じて在学したことがない者が2Aセメスター中に休学した場合は、自動的に留年となる。

2) 2A1ターム・2Aセメスター以降に他クラス聴講(p. ○)・補修(p. ○)・2Aセメスター特修クラス(p. ○)等で単位取得することができない必修科目(Sセメスターでのみ開講の必修科目)において、2Sセメスター中、もしくは2A1ターム・2Aセメスター開始後に行われる2S1ターム・2S2ターム・2Sセメスターの追試験でも単位取得できなかった場合は、その時点で留年が確定する。

3) 進学内定した2年生が本人の意思により進学内定を辞退する場合は、1月上旬の定められた期間に「進学内定辞退届」を提出することにより、留年することができる。ただし、提出期限後の進学内定辞退は一切認められない。「進学内定辞退届」の具体的な提出期間については、2年次の4月中旬頃に配付される『進学選択の手引き』等で確認すること。

2年次終了時に留年した場合は上記1)、2)、3)いずれの場合も、後期課程の学部学科への進学内定は取り消され、あらためて次年度の進学選択を行うことになる。

(略)

以上